

霊的真理をどのように判断すべきか？

「モルモン教の証」対「神の証」

Copyright ©2010 Mormon Outreach Ministries, Sydney

末日聖徒イエス・キリスト教会（通称：モルモン教会）は教会員に、霊的真理を判断するには「胸を内から燃やす」とか「証」といった一自分自身の気持ち（思い）に信頼するようにと、教えています。モルモンの宣教師は、「求道者」（モルモン教に改宗する見込みのある人）に、『モルモン書』のモロナイ書 10：4 を読み『モルモン書』の真実性を求めて祈ることを強く勧めます。神は「胸を内から燃やす」ことによって『モルモン書』の真実性を示すという約束を果たすそうです¹。「胸を内から燃やす」とはどういうことでしょうか。モルモン教の「証」とはなんなのでしょう。心の思いはどこから来るのでしょうか。

I 「胸を内から燃やす」

「胸を内から燃やす」とは①『モルモン書』の真実性や、②個人の行動や決断を確かなものとするために、聖霊が個人に与える平安であり、確信の気持ちということになっています。「燃える」とか「燃えている」が最も近い表現だそうです²。モルモン教徒はこういった感情をモロナイ書 10：4-5 の約束の成就と等しくしています。

また、この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。（『モルモン書』モロナイ書 10：4）

モロナイ書 10：4-5 は、『モルモン書』が真実であることを前提とします。そしてこの祈りの内容は、聖霊がこの書物の真実性を否定する主張が偽りであることを示してください、と言う意味です³。これは、「誠心誠意」で祈るのなら、確信を与える「証」が示されるが、この祈りが叶わない場合、「誠心誠意」がなかったことになり、責任は（祈った）当人にあるということをはのめかしています。

II 「モルモン教の証」対「神の証」

モルモン教徒の標準的な証の多くは、以下の点を含みます。①「イエス・キリストは真の神の御子である」こと、②「ジョセフ・スミスは真の神の預言者である」こと、③「末日聖徒イエス・キリスト教会は真実である」こと、④「『モルモン書』は真実である」こと、—こういったことを述べた後、「証しします」の締め言葉でスピーチが終わります。こういった知識は、事実ではなく感情に基づいています。モルモン教会員は生涯を通じて、月一回の「証会」や、説教壇の話、日曜学校のレッスン、宣教師との議論、レッスンの終わりに、前述の「証」を付け加えます。非教会員に、モルモン教理について挑戦され、答えに窮したとき、モルモン教徒は「証」をします⁴。

福音的クリスチャンの証は、自分が甦られたキリストと出会ってどのように救われ、変えられたかを宣言します。この宣言はイエス・キリストが十字架につけられ、救いの御業を成し遂げて下さった事実に基づいています。聖書を信じるクリスチャンの証はまちまちですが、私たちの証はキリストを中心とします。

神ご自身が、ヨハネの第一の手紙 5：9-13 で証をされています。神の証は人間の証にまさっていると述べています。神の証とは何でしょう。イエスにある信仰のみを通して、今現在、永遠のいのちを持っている確信をもつことができるということです。（ヨハネ第一 5：13）

わたしたちは人間のあかしをうけられるが、しかし、神のあかしはさらにまさっている。神のあかしというのは、すなわち、御子について立てられたあかしである。神の御子を信じる者は、自分のうちにこのあかしを持っている。神を信じない者は、神を偽り者とする。神が御子についてあかしせられたそのあかしを、信じていないからである。そのあかしとは、神が永遠のいのちをわたしたちに賜り、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。御子をもつ者はいのちを持ち、神の御子をもたない者はいのちを持っていない。これらのことをあなた方に書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなた方に、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。（ヨハネの第一の手紙 5：9-13—口語訳）

III 心の思いはどこから？

聖書は3つの根源を述べています⁵。

- [1] **神**：全能の神は、良い思いを生じさせることができます。「全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる」（黙示録 19:6）
- [2] **サタン**：サタンは偉大な偽り者で、「偽りの父」で、よい気持ちを起こすことができます。サタンは「あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべきものに対して行う」とあります（テサロニケ第二 2:9-10）。「悪き者の放つ火の矢」にうたれるかもしれません（エペソ 6:16）。
- [3] **私たちの心**：私たちの心は、偽るものです。人間の心について聖書はどのように述べているか参照下してください。

自分の心を頼むものは愚かである。知恵を持って歩むものは救いを得る。（箴言 28:26）

心はよろずのものよりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。（エレミヤ書 17:9）

これらの聖句は、自分の心や思いだけに頼る者は、誤りへと導かれることを示しています。箴言 14:12 は、「人が見て自ら正しいとする道でも、その終わりはついに死に至る道となるものがある」と述べています。『モルモン書』の真実性を求めて祈ることは、自分自身を欺きの道に開いてしまうというのが結論です。

ヨハネの第一の手紙 4:1 は「愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から世に出たものであるかどうか、試しなさい」と述べています。どうやって霊を試すのでしょうか。神の**ことばである聖書を基準に判断すべきなのです**(テモテ第二 3:16-17)。

聖書は新しい啓示が主張されることにどのように述べているでしょう。「すべてのものを識別して、良いものを守り…」とあります(テサロニケ第二 5:21)。使徒行伝 17:11-12 では、ペレヤ人はほめられています。というのも、ペレヤ人は旧約聖書を日々調べて、聞いた教えは、聖書的であるかどうか、従って真実であるか否かを判断していたからです。『モルモン書』にある永遠のいのちを、大昔からの聖書の啓示に照らして調べてみましょう。

IV 永遠のいのちを今持っていると確信していますか？

わたしたちにとって、もっとも重要なことは、どうしたら永遠のいのちを得ることができるのか、天の御父と永遠に生きられるかということです。モルモン教徒に頻繁に引用されている『モルモン書』にあるニーファイ第二 25:23 は、聖書のエペソ人への手紙 2:8-10 とは、明確な対照をなしています。

わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。

(ニーファイ第二 25:23)

あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなた方自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることができないためである。わたしたちは、神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、私たちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えてくださったのである。(エペソ 2:8-10)

『モルモン書』には「完全な永遠の福音」が載っているそうです(『モルモン書』の序文、『教義と聖約』20:9,42:12,135:3 参照)。しかし、「永遠のいのち」や、モルモン神殿での活動など多くの重要な教えは含まれていません。したがって、以下では、モルモン教会のもう一つの聖典である『教義と聖約』131, 132 を引用しました。

モルモン教理によると人は天国に行くことができますが、永遠のいのちを必ずしも持つわけではありません。モルモン教会の言う「永遠のいのち」は「昇栄」することと同義語で、永遠にわたって神として存在し、永遠に霊の子どもをもうけることができるということです⁶。そのためには、神殿でエンダウメントを受け、この世から永遠にわたる結婚などをしなければなりません。聖書では、**永遠のいのちはすべての真のクリスチャンに約束されていて、天国にいる者は誰もが、永遠のいのちを得ますが、天国では神々になれるとは、決して約束されてはいません**。使徒ヨハネは、「御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者は、いのちを持っていない。これらのことをあなた方に書き送ったのは、神の子の御名を信じるあなたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである」と述べています(ヨハネ第一の手紙 5:12,13、ヨハネの福音書 5:24 参照)。永遠のいのちは、神からの賜物で、自分の努力で得るものではありません(エペソ 2:8-10)。

したがって、モルモン教会の「永遠のいのち」は聖書の教える「永遠のいのち」と同一ではありません。聖書の基準に達しないのです。『モルモン書』の真実性を求めて祈ることは神がそのことに関して述べていることを無視することになるのです。

J.A.C.レッドフォードは、元モルモン教会員であった、クリスチャンですが、モルモン教徒として霊的体験⁷をしていました。レッドフォードはクリスチャンとして、モルモン教徒の時体験したことを次のように述べています。

多くの年月を平安を求めて探しまわった後、妻のリーアンと私は、最終的に神のキリストによる罪の贖いのなかに見つけました。クリスチャンになることで、過去とは劇的な断絶をしたわけですが、長年の多様な体験を通して、(万物の主として)すべてを統治される神の忍耐強い目的が少しずつ見えてくることも認識しました。モルモン教徒としての生きかたをうらんだり、拒絶するよりも、神のすべてを包含する哀れみの連なりの一部として理解すること、すべてを通して絡んでいるよった縄を見ることを学びつつあります。モルモン教とキリスト教の相違点を強調して、私どもの神への最も深い願望に答えてくださる、神の一貫した誠実さを見失うことはしたくありません。

私のモルモン教徒としての霊的体験は主に、神への真摯な憧れの産物であったと思います。一部は真のインスピレーションで、ご自分のもとに引き寄せながら、神が、恵み深く、忍耐強く縫った理解の糸だったでしょう。ある体験は悪魔の影響でしょう。私は自分の霊的経験で問題に出くわしたのは、聖書に照らして判断するということを教わっていなかったからです。この間違いのため、偽りに無防備な状態に自身をおいていたのです。モルモン教理の事実を霊的経験から推断の基礎とした私は、まったく間違っていました。特に、モルモン教理が無比の聖書の権威に対する私の信頼を揺るがし、偽の神を崇拜することを教え、私の働きを神との関係の基礎とすることを考えると、私の間違いが大きかったと思います⁸。

結論： モルモン教徒は、『モルモン書』にある「永遠のいのち」の教えを聖書に照らして吟味するかもしれませんが、しばしば誤りの結論に達します。自分の胸の思いに頼るよう教えられているからです。心は主観的な源であり、「よろずのものよりも偽るものではなはだしく悪に染まっています」モルモン教徒の霊的体験は、たいてい自分の心の産物か、偽りの産物です。聖霊は「真理の御霊」で私たちをあらゆる真理に導いてくださいます（ヨハネ 16:13）。聖書はすべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益であるとあります（テモテ第二 3:16）。『モルモン書』の教えは古い啓示である聖書に照らして調べるべきです。これまで見てきたように、『モルモン書』の教えは聖書の真理と一致しません。したがって、モルモン教会に信頼を置く人は、聖霊に導かれているとはいえません。

注

- 1 『教義と聖約』 9:8 は次のように述べています。「しかし見よ、私はあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく計り、その後、それが正しいどうかを私に尋ねなければならない。もしそれが正しければ、私はあなたの胸のうちから燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう」（『教義と聖約』はモルモン教会の公式の正典（『標準聖典』）の一冊）
- 2 Doctrine & Covenant Student Manual, p.21
- 3 John Farkas, “HOW DO WE TEST FOR SPIRITUAL TRUTHS?” (www.bcmmin.org/truthes)
- 4 Duties and Blessings of the Priesthood A- an official Mormon teaching manual p.190
- 5 Jerry and Dianna Benson, *HOW TO WITNESS TO A MORMON* (Chicago, The Moody Bible Institute, 2000)
- 6 7 Doctrine & Covenants 131:1-4, 132:19-25, 30, 55
- 7 J.A.C. Redford, *Welcome All Wonders: a Composer's Journey* (Grand Rapids, Baker House, 1997) pp. 45-46
- 8 Ibid.